

寄付金の多寡等で合否が左右されるということはありません。しかし、小学校受験では子どもの考査が合格点に達していても、親によって不合格になるケースも少なくないのです。

要するに、たくさんのお応募者の中から学校が欲しいと思った子を「選り好みする」というのが、小学校受験だと思ってください。

最初から興ざめするようなことを言いましたが、小学校受験とは何なのか、その現実を明確にしておかないと、短期間に無駄なく確実に目的を達成するための方策を立てることはできません。現実を見極めた戦略的、実戦的な考え方と方法をもつことが合格への近道といえるでしょう。

●小学校受験の費用と準備期間は「受験適応力」で決まる

出題範囲が決まってない、合格基準が不透明……そのような試験に挑むには、受験準備にとりかかる前に、まず、ゴールはどこかを見定める必要があります。つまり志望校を決めるのが先決です。志望校が決まっていない状態で受験準備をスタートするのは、ゴールがどこにあるかわからないままに走り出すようなものです。

次にやるべきことは、わが子の「棚卸し」です。棚卸し等という言い方をすると、うちの子は商品ではないと叱られそうですが、子どもの発達の現状を客観的に確認することです。わが子は年齢相応に育っているのかどうかを、次ページ表Ⅰでチェックしてみてください。○△×の

成功要因

志望校が決まっていない状態で受験準備をスタートするのは、ゴールがどこにあるかわからないままに走り出すようなものです。

評価の目安は次のとおりです。

「○」は「できている」

「△」は「ほぼできている」「ときどきできる」「教えればすぐできると思う」「等

「×」は「まったくできていない」「教えるのに苦労すると思う」「等

小学校受験は出題範囲のない試験と言いましたが、要するに、子育てのありようが問われているのです。年齢相応の思考力があるか、名前を呼ばれたらハイと返事ができるか、静かにしていなさいと言われたら、先生の指示をきちんと守れるか等、学校側はいろいろなテストを通してチェックします。

ですから、左表のような項目について、「ほぼできている」「教えればすぐできると思う」という子どもと、「ほとんどできていない」という子どもの場合、受験準備はまったく違ってきます。幼児教室に通わせるとなると当然費用も違ってきます。

試験間際に集中的に教えれば何とかかなりそうな項目が多いと思うかもしれませんが、油断しないでください。大人と違って5歳6歳の子どもの場合、一夜漬けは効きませんし、一時しのぎはできてもすぐボロが出ます。最近の傾向として、各校とも「訓練された子の本当の姿」を見るために審査内容をいろいろ変えています。

「朝起きたらお父さんとお母さんになんと挨拶しますか？」

成功要因

表 1-1 受験適応力チェック

基本的な生活習慣、挨拶、言葉遣い等、「わが子の受験適応力」は一夜漬けの練習では身につけません。

	○	△	×
<b>基本的な生活習慣は身につけているか</b>			
早寝早起き、規則正しい生活リズム			
<b>身の回りのことは自分でできるか</b>			
着替え、脱いだ服をたたむ、洗面・歯磨き、部屋の片付け等			
<b>家族の手伝いはするか</b>			
食器片付け、洗濯物を干す・たたむ、小さな兄弟の世話等			
<b>挨拶はきちんとできるか</b>			
「おはよう」「こんにちは」から「おやすみなさい」まで、はっきりと姿勢正しく			
<b>言葉遣いは正しいか</b>			
目上の人に敬語・丁寧語を使えるか 「～です、ます」			
<b>知的能力は年齢相応か</b>			
幼稚園・保育園の活動は円滑か			
<b>社会性は年齢相応か</b>			
幼稚園・保育園で集団生活は円滑か			
<b>運動能力は年齢相応か</b>			
通常の活動に加え、ボールやフラフープなどの道具を使った遊びもできる			
<b>素直な心で人と接することができるか</b>			
「ありがとう」「ごめんなさい」を相手の目を見て心から言える			
<b>人の話を注意深く聞くことができるか</b>			
特に大人、先生の話は集中して聞いて指示に従う			

「おはようございます、です」

「夜、寝るときは何と言いますか？」

「お休みなさい、です」

「よくできましたね。では、ほかにどんな挨拶言葉を知っていますか？」

このように次々と質問されると、一夜漬けの練習ではとても対応できません。挨拶言葉は一週間ほど特訓すれば間に合うと考えていては甘いのです。

親子面接の際に、子どもを親から引き離して座らせる学校もあります。親が面接を受けている10分〜15分間の子どもの態度をチェックするのです。身体がグニャグニャしたり、足をぶらぶらさせたり、立ち上がって親のところに来てしまったような場合は、マイナス点を覚悟しなければなりません。10分間、姿勢を正しくして静かに座って待つ——というのは、身体のトレーニングで身につくことではなく、精神を含めた躰の問題で、学校はそれを確かめたいのです。

●親が本気になれば受験に必要な能力は身につく

表1-1にあるような項目をみると、小さいうちからこんなにもたくさんのお話を教える必要はないのか、子どもがかわいそう……と受験をためらいたくなりますが、どの項目も就学前の子どもが知っておいたほうがいいこと、身につけておいたほうがいいことばかりです。幼児期

●志望校の決定は早ければ早いほど有利！

準備期間を短く、できるだけ安い費用で、しかも確実に目的を達成する……そのためには、志望校の決定は早いに越したことはありません。受験する前年の11月に幼児教室に入り、翌年の4月～5月に行われる学校説明会に参加して志望校を絞り込むというケースが多いようですが、受験を思い立ったら、真っ先に志望校を絞り込んでおいたほうが有利です。

知り合いのあるお母様の場合、最初から志望校は決まっていたのですが、より志望校のことを知りたいと思って3年前から学校説明会に出席していました。学校側もそれに気づいていたらしく、受付の際に「今年で3度目ですね。ありがとうございます」とお礼をいわれたそうです。

学校側に見れば、合格しても本当に入学するかどうかかわからない志願者よりも、3年連続して説明会に出席するほどの熱意をもった志願者のほうに入学して欲しいと思うのは当然でしょう。

志望校の決定が早ければ早いほど有利というのは、志望校の研究だけでなく、志望校に合わせ

た受験対策に早く取り組めるためです。その対策とは、簡単に言えば志望校の傾向を調査し、綿密な計画を立て、親も子も準備を進め、途中で軌道修正しながら実行を繰り返すということです。もう少し細かく言えば、学校の説明会に出席する等の情報収集、過去の出題を入手して学校の好む分野と出題の傾向の分析、週単位での学習計画立案、願書記入の草案作成と推敲、進捗に応じた計画変更等、一つひとつがとても手のかかることばかりです。ただでさえ理解の度合いや子どもの体調、幼稚園・保育園の行事等による計画の修正は頻繁です。

多くの家庭では遅くとも受験1年前の秋までには何かしらの準備を開始することでしょうが、なるべく早く志望校が固まれば、それに沿って効率良い対策を取れることになります。遅くとも受験約6か月前の4月には志望校が決まっていることが理想だと思います。

夏を迎える頃にまだ迷っているようなことは絶対に避けたいものです。わが家では事情あって受験6か月前の準備開始でしたが、その時点で既に志望校は固まっていたので、そのぶん、初めから効率よい準備ができたことが成功の一つの要素だったと思います。

●志望校を決めるときに子どもの意見を聞く必要はない

本来であれば、志望校は、家庭の教育哲学・方針が固まっていれば、すんなりと決まるものです。中学・高校・大学受験のように、年齢が進むにつれて子ども本人の学校選びに対する意思が出て

#### 成功要因

学習計画の立案、出題傾向の分析、願書記入の準備等々、やらなければならないことは山ほどあります。志望校決定は早ければ早いほど有利です。



くるものとは違い、小学校選びは親の考えが全てです。

子どもに学校見学をさせると、「ぼく（わたし）はこの学校が好き！ この学校に行きたい！」ということもあるかもしれませんが。しかし、それは学校の建物や制服といった外面的なことから来る印象がほとんどです。子どもの意見を聞く必要はなく、志望校を選定する過程においては、あくまでも親の考え方を貫くことが大切だと思います。

家庭の教育哲学とは、子どもにどのような人間に育って欲しいと願い、そのためにどのような教育をしていくかという根本的な考え方のことです。そして教育方針とはそれを実行するための具体的な指針のことです。まずは教育哲学をしっかりと確立することが、幼稚園や小学校受験はおるか、子育てで最も大切なことではないでしょうか。

「わが子の教育哲学」等と難しいことは考えたことがないという人がいるかもしれませんが、この子は、将来、こういう生き方をして欲しい、こういう人間に育って欲しいと親の頭の中では何かしらのイメージができあがっているはずですが、ただ、口に出して話をしたり、書いたことがないというだけです。小学校受験を機に、わが子はこう育って欲しい、こんな生き方をして欲しい。そのためにもこういう点に気をつけて子どもを育てているんだ……その思いを具体的な言葉として、あるいは文字に書き表すのです。

子どもは年齢や状況に応じて大きく変化するわけですが、その長い期間を通じて親が子育てに

対して貫く考え方を持つことは、親の姿勢、子どもとの関わりを保つために大変重要なことだと思われまます。そして教育方針は、年齢や環境等の状況に合わせて設定していくものではないでしょうか。小学校入学前の子どもを持つ親の立場では、初等教育というものをどのように捉え、わが子にはどのような小学校教育の環境を与えたいかということが小学校受験を決め、志望校を決める決め手になると思います。

小学校教育に対してなんらかの目標を見出し、それが公立小学校で実現することがむずかしいという場合に、国立や私立の学校を受験することを決定付けると思います。わが子の教育哲学・方針が具体的であればあるほど、志望校が絞り込まれてくることは言うまでもありません。

### ●志望校を絞り込む6つのポイント

わが家の場合は早い時期から志望校が決まっていたましたが、そうでない場合はどのような観点で考えたらよいか考えて見ましよう。私が子どもの小学校受験を考え始めたとき、志望校を選んでいく考え方の要素として重要だと思われるものを抽出しました。それは次の6点です。

- ① 国立か私立か：…国立大学の附属小学校か、独自の教育の特色を出す私立か
- ② 男女共学か別学か：…共学、別学のメリット、デメリット
- ③ 宗教色の有無、宗教系であればどの宗教か：…どの宗教の精神による指導が欲しいか（キリ

#### 成功要因

家庭の教育哲学とは、子どもにどのような人間に育て欲しいかと願い、そのためにどのような教育をしていくかという根本的な考え方のことです。



スト教カトリック、キリスト教プロテスタント、仏教等)、それとも無宗教か

④ 学校の教育特色

⑤ 中学・高校・(大学) までの一貫校であるかどうか。内部・外部進学状況

⑥ 子どもの現在の性格との一致性

これらの項目それぞれに対する考えを決めていき、すべての条件に合致する学校というのは実は1校だというのが現実ではないでしょうか。それはとりもなおさず本命校、子どもを本当に入りたい学校であるはずです。条件すべてに合致する学校が見つからない方もいるかもしれませんが。その場合は最も近い学校を志望校とするのが妥当です。

男女別学が向いているのか？ 共学か？ 伸び伸び教育か？ しつけを重視する学校か？ いわゆる有名校か？ 有名でなくとも独自の教育を打ち出している学校か？

いずれの学校もそれぞれ魅力的なだけに迷うことは珍しくありません。

わが家の場合は、子どもが大人になったときにどのような人間になって欲しいか、20歳の時には、15歳(中学卒業)の時には、12歳(小学校卒業)の時には……年齢を下げていき、そのときどきにこうあって欲しいという子どもの姿を頭に描きました。すると、具体的な学校教育のイメージが出てきました。

「○○ちゃんはA校を受けるらしい。ならウチだって受かりそうだから受けようかしら」「△△△

くんはB校らしい。仲良しだからウチも受けないと」という発想が入ると、自分の家庭なりの考え方が見えなくなってしまう。わが子主体の考え方でいけば、他の家庭のことに引きずられるようなことにはなりません。

また、「あの学校は有名だから」「受かったら自慢できる」という理由から志望校を選ぶのも避けるべきではないでしょうか。教育内容があつての学校ですし、その教育内容に賛同しての受験だということが大切だと思います。さらに、あくまで家庭の考え方が主体であり、決して志望校の考え方に自分たちを無理やり合わせるのではないということも忘れないようにしました。とかく本命校には憧れの気持ちを抱くことが多いので、どうしても「あの学校はこうだからウチもこうしよう」というような本末転倒な発想に陥りがちです。

もちろん、願書には、学校の教育に自分たち家庭の考え方が一致するという立場で書く謙虚な姿勢が必要ですが、出発点は、自分たちの考えに合う学校だから受験した、ということですが、ここを間違えてしまうと、家庭あつての学校だということが置き去りになり、「お受験」に振り回されてしまうのではないかと恐れています。

●学校説明会で情報を集めるときのチェックポイント

本命校、併願校ともに、志望校を選ぶ過程で大切なことは、正しい良質な情報を自分の足で集

成功要因

志望校の決定に際しては、あくまでも家庭の考え方が主体であり、志望校の考え方に自分たちを無理やり合わせるのではないということをお忘れなくしました。

めるということです。噂や憶測ではない、事実を自分の目と耳で確かめる必要があります。

学校の情報を最も正しく得られる場合は学校説明会です。学校説明会は、学校が受験生候補者、つまり入学候補者に学校をよりよく知ってもらおうという趣旨で開催するものです。そこには、学校の考えを知るヒントがたくさんあります。説明会は学校を知ってもらいたいから開催するのであり、知ってもらわなければならないと考えたり、縁故者だけで入学者が決まってしまう場合等は開催しないでしよう。

この絶好の機会を存分に活用して、学校への理解を深め、志望校選択のための良質な情報を手りたいものです。ややもすると単に参加して話を聞いて終わってしまいかねない説明会ですが、少し気をつけて参加するだけで、学校の特徴や学校ごとの違いを明らかにすることができます。私は実際に説明会に参加する際、次ページ表2-1のような点に留意しました。

学校説明会では、もちろん、悪いことは何もおっしゃらないでしよう。しかし、巷のウワサや案内書によるものではなく、学校そのものを直接知るまたとない絶好の機会です。

質疑応答の時間も設けられているはずですので、質問があれば遠慮なく聞いてかまわないと思います。おかしい質問というものはありません。疑問があれば、考査そのものに関することでもかまわないのです。学校は、答えられる範囲で誠意をこめて答えて下さるものです。消化不良で帰宅の途につかないようにすることが大切です。

## 成功要因

■表 2-1 学校説明会に出席したときのチェックポイント

チェック項目	留意点
①学校説明会は何回開催されるか？	複数回行なわれるほど熱心。
②メインでお話になる方はどなたか？	校長先生か、教頭先生か、他の先生か。 役職の高い立場の方が登場する 学校は説明会に力を入れている。
③どのような話に重点が置かれているか？	学校がもっとも伝えたいことは何か。 学校の考え方のポイントを知ることができる。
④動員されている教師の人数は？	説明会に対する学校の熱意の一つの 尺度。
⑤教師の態度、言葉遣いはどうか？	教師に対する学校の指導のあり方、 教師の品性を知ることができる。
⑥説明会の内容は学校を理解するに 十分なものか？ (校内案内や授業見学等)	教育内容に自信があれば校内を見せる ものである。
⑦他の出席者はどのような様子か？	一緒に受験する家庭のカラーを知る。
⑧構内の掃除は行き届いているか？	学校の余裕度、細やかさ、躰教育の尺 度。特にお手洗いは要チェック。
⑨在校生は礼儀正しいか？ 制服・ 服装はきちんとしているか？	躰指導の尺度

志望校に在籍する低学年と高学年の生徒の家庭、さらに卒業生からも話を聞くことができればベストです。

説明会に参加する際の服装は、受験時ほどの正装でなくともいいのですが、パンツ（スラックス）は避けるのが無難です。色は紺、黒、茶色等、落ち着いた色が学校への敬意を表するものとして適当でしょう。バッグは、書類等も受け取るでしょうから、普通に常識的なスタイルのものであれば大きさはどのようなものであっても問題ありません。実際の会場では9割が紺・黒系でした。

学校説明会のほかにも、在校生や卒業生の話はとても参考になります。とくに在校生の場合は、入学して間もない低学年と、しばらく経っている高学年の生徒の家庭から話を聞くことができればベストです。入学してすぐの状況と学校に入って数年たった状況から総合的にその小学校の姿を想像できるからです。ただ、生徒個人による違いもあるので、あくまでも話を客観的に聞く姿勢を保ちたいと思います。

卒業生からは、在校時の思いと母校を振りかえっての感想を聞いてみると、卒業後にその学校の教育がどのように生きているかを知ることができるので、別の観点から大いに参考になります。在校時にはわからなかった学校教育の価値が卒業後に見えてくるということとはよくあります。

### ● 入学試験の評価基準と合格の相性判断

小学校受験で難しいことの一つに、可否の基準がわかりにくいということが挙げられます。中学入試以降は試験の点数でほぼ可否が決まる、つまり偏差値で可否の予測ができるものですが、

小学校入試にはそれが当てはまりません。

調査の内容と採点方法、調査以外の部分、すなわち親の職業や学歴、縁故の有無・強さ等、いろいろなことが組み合わさって合否が決まるので、この子の合格の可能性はどうかと問われるとわかりづらいのです。そのためにますます親が不安になり、デマや噂に振り回されがちなのだと思います。

私は、良質な情報を自分の足を使って目と耳で集めれば、ある程度、志望校と家庭の相性は判断できるはずだと思い、いくつかの項目について、学校と家庭を客観的に評価する表を作成してみました（次ページ表2―2と3）。志望校が調査で重視する度合いや家庭の強みを客観的に採点するものです。

志望校ABC各校の特徴とわが家の強みは以下の通りです。

A校 行動観察中心の評価、親もしっかり評価される。縁故枠が多いと予測。

B校 ペーパーと行動観察による子どもの実力本位の評価。縁故も影響薄く、本人次第。

C校 行動観察と巧緻性重視。

わが家 ペーパーはしっかり準備している。面接も、親は得意。親の職業は会社員でアピールできるほどではない。縁故は、A校は卒業生が親友、B校はなし。

#### 【相性の判断】

#### 成功要因

志望校が調査で何を重視するか、それと家庭の強みを客観的に評価すれば合格相性がどの程度高いか判断できると思います。





成功要因

本命校より併願校のほうが合格相性が良い場合もあります。併願校に確実に合格する戦略を詰めておくことが大切です。

表2-2 志望校とわが家の合格相性判断

	A校	B校	C校	わが家
ペーパーテスト	◎	◎	×	◎
行動観察	◎	◎	◎	○
巧緻性	△	○	◎	△
運動	△	◎	◎	◎
面接	◎	○	△	○
親の職業	○	△	◎	△
親の学歴	○	△	◎	△
縁故の強さ	△	△	○	*

■採点方法

学校側	特に重視と思われるもの	◎
	やや重視と思われるもの	○
	参考程度と思われるもの	△
	全く考慮しないと思われるもの	×
わが家	大きな強みである(得意)もの	◎
	やや強みであるもの	○
	強みでも弱みでもないもの	△
	弱みであるもの	×

\*「わが家の縁故の強さ」は、A校は親友が卒業生、B校は縁故なし  
C校は母親の兄が卒業生

表2-3 合格の相性がいい学校・良くない学校

合格の相性が高い学校	学校◎	わが家◎
合格の相性はほどほど	学校◎	わが家○
	学校○	わが家◎
合格の相性はあまり良くない	学校◎	わが家△、×

校に重点を置いた準備をすべきか、迷うことも多くあります。

その場合は、親として考える家庭の教育方針をもっと詰めましょう。子どもが合うかどうかはあまり考えずに、親が子どもの教育をどうしたいかを中心に考えます。なぜなら、子どもの性格はありますが、子どもは与えられた環境の中で成長していくのです。今、おてんばだからといってずっとおてんばとは限りません。今おとなしいからずっとおとなしいかとも限りません。

親が望む成長というものがあり、それを想定した環境を与えられ、その中で成長していくと考えてはいかがでしょうか。成長していく中で、子どもと環境が合っているかどうかは、その過程で見直していけばよいのです。

●受験準備に入る以前にしたこと①「読み聞かせ」ではなく「読み楽しむ」

わが家の場合はどうだったかというと、下の子どもが誕生して間もなかったため、年中の間は母親の私に全く余裕がなく、勉強らしいことは何もできませんでした。ようやく年長の春、それも5月に本格的なスタートを切ったという実に遅いものでした。本来でしたら上記のように年中児の頃から始めたかったのですが、現実的に二十四時間態勢で赤ん坊に付きっ切りで疲労困憊していた私に受験指導は無理でした。

以前から幼児教室に通わないと決めてはいましたが、この際行かせて少しでも勉強させようか

			巧緻性	面接	その他	願書（親）
言語	記憶	常識				
	話の記憶		課題画・自由画・工作・手先遊びを毎日		読書（毎日）・季節の行事（適宜）・社会常識・公共マナー（日常的）	教育方針・志望動機・子供の性向などより文面化、推敲の継続
	位置の記憶					
	話の記憶					
しりとり						
しりとり						
音（おん） の数	話の記憶					
話の順序						
	形の記憶	季節				
		理科的常識				
	話の記憶					
		社会常識・マナー				
	話の記憶	理科的常識				
問題の取り出し復習、						学校別推敲・最終調整・清書・提出
問題の取り出し復習						
				基本的想定質問の 練習		

3章●「合格する家庭指導」のポイントは学習計画にあり！

成功要因

表 3-1 学習計画表

最も計画性を要するペーパー対策は、第1ラウンドで2日に1単元、週に3単元のペースで進め、7月末までに大体カバーするように組みました。

週(*1)	日付(*2)	学習計画表			
		目 標	数 量	図 形	推 理
5月第1週	5/2~5/8	全領域カバー (問題集1巡目)	1対1対応		系列
5月第2週	5/9~5/15		10までの数の操作(1)	形の識別	
5月第3週	5/16~5/22		10までの数の操作(2)	点図形	
5月第4週	5/23~5/29		1対多対応		欠所補完
5月第5週	5/30~6/5			線図形	位置の移動
6月第1週	6/6~6/12		数の分解	図形の分解 合成	鏡の映像
6月第2週	6/13~6/19				四方からの見え方
6月第3週	6/20~6/26		順番		ブラックボックス
6月第4週	6/27~7/3				サイコロ
7月第1週	7/4~7/10		積み木の数		観覧車
7月第2週	7/11~7/17		シーソー	模写	
7月第3週	7/18~7/24			線対称	
7月第4週	7/25~7/31				
8月第1週	8/1~8/7		弱点復習(問題集2巡目) 志望校過去問題(1巡目)		
8月第2週	8/8~8/14				
8月第3週	8/15~8/21				
8月第4週	8/22~8/28				
8月第5週	8/29~9/4				
9月第1週	9/5~9/11	総復習(3巡目) 過去問題(2巡目)	7月までに苦手とした分野・得意分野は継続的学習		
9月第2週	9/12~9/18				
9月第3週	9/19~9/25				
9月第4週	9/26~10/2				
10月第1週	10/3~10/9		9月末で苦手な分野・得意分野は継続補強		
10月第2週	10/10~10/16				
10月第3週	10/17~10/23				
10月第4週	10/24~10/30				

\* 1 年によって月の週数は変わるが、具体的な日付(\*2)を優先する。  
\* 2 月曜に始まり日曜に終わるように設定する。表は2005年の例。